

看護実践・キャリア 支援センター通信

2017年度
Vol.12

上級臨床指導者育成プログラム

今年度から始まった本プログラムは、教育的役割を果たせるための知識・技術・態度を備え、学びを支援できる上級臨床指導者を育成するという目的で実施されています。今年、B棟5階の戒田祐子さん（老年看護学領域）、C棟8階の中村雅子さん（成人看護学領域）、E棟5階の後藤寿美子さん（母性看護学領域）、小児センターの三谷博子さん（小児看護学領域）、D棟2階の中川千春さん（精神看護学領域）の5名が受講されています。「教育力の育成研修」（現任教育）や「これからの看護教育を考える」（奈良県看護協会）「看護管理者研修」（現任教育）の受講をはじめ、臨床実習指導を行う上で、学生のレディネスを知りたいことを目的として、看護学科の講義・演習に参加しています。また、6月30日に、福井千晶主任による「研修の企画について」の講義を受け、9月28日には、看護学科の石澤美保子先生と五十嵐稔子先生による「指導者とは 指導者を指導することとは」というテーマで看護における教育についての講義・演習を受けました。そして、12月6日の臨床実習指導者研修を、看護部の臨床実習指導者を対象として、企画・運営していく予定です。12月からは、6回コースで「対人援助の基礎知識・技術研修」ベーシックコースを受講する予定です。6月に始まった1年間のプログラムも半年が経ち、受講生同士の結束もみられ、研修で学ばれた知識や技術を各部署でリーダー的存在となって活躍していただけることを願っています。



「明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術」研修



平成29年10月21日土曜日に、奈良県立医科大学附属病院の皮膚・排泄ケア認定看護師 崎山恵美先生、西林直子先生による研修が行われました。院内からの参加者は16名、院外からは8名でした。演習では、症例検討や体圧分散寝具の種類別による体験、ポジショニングの体験、おむつの使い方が行われました。症例検討では症例のDESIGN-Rの採点、局所処置法について活発なディスカッションが行われていました。体験による演習では、寝具の違いやポジショニングで皮膚への圧迫を実感できたことや、摩擦やずれをなくすためのおむつの選択がよく理解できたことが感想として参加者から聞かれました。褥瘡予防のための具体的な実践レベルの知識と技術を学んでいただきました。



平成 29 年度チェンマイ大学との学術協定に基づく チェンマイ大学附属病院への看護師派遣支援

平成 29 年 10 月 30 日～11 月 12 日 研修に参加された 小川哲平さん、米川由美さんからの報告です。

初めての海外研修で、言葉や食事などいろいろな不安のある研修でした。しかし、チェンマイ大学病院の看護部長をはじめ、みなさんがとても親切で歓迎してくれ、楽しく研修期間を過ごせました。チェンマイ大学病院は 1400 床の大病院です。看護師の約 3 割が大学院に行っている非常に優秀な方が多い病院でした。病院の教育のシステムや、さまざまな委員会などの情報を共有できるようなシステムが構築されており、各看護師の情報や、各ユニットの情報を活用するべく、情報を管理するセンターがあり、有効に活用できる仕組みができていました。2 週間でいろいろな部署に行きましたが、どこに行っても仲が良く、チームワークをととても大切にしている印象でした。技術の進歩も大切ですが、チェンマイでの 2 週間で、とても親切で細かい気配りや人の温もりを感じました。患者にケアする気持ちの大切さをあらためて感じた 2 週間でした。(C3 小川 哲平)

ขอบคุณมาก (ありがとう)



チェンマイ大学病院には非常に優秀な看護師が多く、教育や情報共有・管理などのシステムが細やかに構築されており、看護師一人一人が高い意識を持って働くことが出来る素晴らしい体制がありました。そして、皆が同じ方向を向いて取り組む、強いチームワークがありました。いつも、どこにでも人々の優しいまなざしや細やかな気配りの温かさがありました。この研修において、整備されたシステムが素晴らしいだけでなく、やはり人同士のつながりや思いやり、患者への思いが大切であることをあらためて感じる事ができました。国の特色や医療事情など違うところはたくさんありますが、看護師として本当に大切にしたい物は同じなのではないかなということを感じることが出来ました。

海外で学ぶという事は、難しいことも多くありました。しかし、違う国の文化や医療事情、病院の体制や教育について知り看護に触れて学べたことは、今までを振り返り、これからを考えていく上でとても重要な経験となりました。(看護実践・キャリア支援センター 米川 由美)

音楽療法ってななに

平成29年9月14日、15日、音楽療法士 高本恭子先生にお越しいただき、奈良県立医科大学附属病院に平成29年4月から入職した新人看護職員を対象に講演していただきました。音楽療法を知ってもらい心癒やす機会にして頂きたいと考えました。曲にまつわるエピソードや、音楽をきっかけに心開いてくれた少年の実例など、音楽療法についてとその効果を学ぶことができました。アンケートの結果でもほぼ満足という結果でした。「気持ちが軽くなったように思う」「精神状態に合わせての音楽の選択、リラックス効果を実感することができました」などの声をいただきました。これを機に、希望された新人12名の方には11月7日、8日に少人数で行う音楽療法グループセッションに参加いただきました。



育児休業取得者への復職支援プログラム

平成29年9月6日(水)なかよし保育園にて、復職を目指す育児休業中の看護師の方へ、本年度第1回めのサロンを開催しました。今年度秋以降に復職を予定されている方に呼びかけたところ、5名(うち、お子様連れ2名)の方が参加されました。前年同様、人事担当者から復帰後のサポート制度等について説明していただき、育児休業制度を活用して復帰された看護師2名にご協力いただき、昼食をとりながら交流していただきました。

参加された方の声を伺うと、「自分では知らないことを知ることができてよかった。」「質問が色々できて役に立ちました。」などがありました。早速11月より職場復帰されている方もいます。

第2回は、平成30年1月17日に予定しています。



「対人援助の基礎知識・技術」アドバンスコース

平成29年5月から6回を1コースとして、「対人援助の基礎知識・技術」アドバンスコースが開催されました。ベーシックコースを修了された、看護主任と看護副師長の10名の方が受講されました。講師は看護学科 精神看護学 橋本顕子先生です。

第1回目は対人援助の基礎知識・技術について講義で復習し、逐語録についてオリエンテーションを受けました。第2回目以降は二人一組でカウンセリングを行い、その内容を逐語録に起こします。グループに分かれ、演習で振り返りながら、カウンセリングの基本的態度で聴くためにはどのような応答が望ましいかを話し合い、考察を深め、対人援助のカウンセリング技術について学びました。

アンケートの結果は、今後の活用度、満足度ともに100%と好評でした。「逐語録を起こすことで自分たちの考え方、思考を振り返ることができ、改めて理解することができた。」「共感的な言葉で返していると思っても、相づちだけだったり、アドバイスをしていないつもりでもアドバイスしてしまっていることに気づいた。」などの意見が聞かれました。指導、アドバイスする機会の多い方々である故に、改めてカウンセリング技術を意識した対応を今後に生かしていただける機会となったのではないかと思います。さらに援助的に関与するための知識、技術を学ぶため、10月から、実践的なグループスーパービジョンコースを受講されています。



29年度 看護実践キャリア支援センター事業 開催予定

がん看護コミュニケーション研修

日時：平成29年12月16日（土） 10:00～15:00

がん化学療法看護研修

日時：平成30年1月13日（土） 10:00～15:00

育児休業取得者への復職支援サロン

日時：平成30年1月17日（水） 11:00～13:00

摂食嚥下障害看護研修

日時：平成30年2月3日（土） 10:00～15:00

3年生対象：看護部スタッフとの懇親会

日時：平成30年2月23日（金） 17:15～18:30

卒前看護技術トレーニング研修

日時：平成30年3月14日（水） 9:00～12:15

実習指導者と看護学科教員との交流会

日時：平成30年3月予定

